

豊能地区では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。今年度は小学校教諭67名、中学校教諭23名、養護教諭1名、合わせて91名の先生方が10年経験者研修を受講されています。豊能地区の3市2町合同でおこなう「共通研修」では、研修から学んだことや考えたことをどのように自校の取り組みにつなげていくかをグループで話し合うなど、お互いに交流することを大切にしています。この研修通信“On your side”では、研修内容の振り返りや10年めの先生方に大切にしてほしいことなどを発信していきます。

◇「学びの伴走者」としてのかかわり

第1回は、「コーチング」をメインテーマに、校内での指導・助言について研修を行いました。指導・助言というと何か教える授けなければならないようなイメージがありますが、コーチングでは、研修で扱った「傾聴」や「質問」など、双方向のコミュニケーションを前提に、指導・助言を受ける側の想いを引き出すことを大切にしています。国が示している令和の日本型学校教育でも「学びの伴走者」と表現されているように、学び手に寄りそい、ともに学ぶことができるようなかかわりが求められています。先生方は、日々、子どもとのかかわりの中で、「子どもに寄りそう」ということを大事にされているかと思いますが、その中で、傾聴や質問のスキルを発揮している場面が多いはずですが、そのような、子どもとのかかわりの中で大事にしていることを、コラボ研修や校内での指導・助言の中でも大事にしてほしいと思います。

◇対話的な事後協議の場を

この研修通信と同じタイミングで、初任者研修/新規採用者研修通信第4号を発信しているのですが、以下のような文章を掲載しました。

模擬授業の後には事後協議が行われ、10年めの先生方から指導・助言をいただきます。指導・助言というと少し受動的な感じがしますが、一方的にアドバイスをもらうというよりは、皆さんの意図やねらいについて質問されたり、模擬授業の手ごたえを聞かれたりと、皆さんが話す場面も多いのではないかと思います。質問されたことについて考えることで、じっくりと自分の授業実践について自分を見つめ直すことになるはずですが、以前、道徳の研修で、講師の龍神先生がおっしゃっていたように、授業中の発言や行動には、無意識のうちに先生方の価値観が反映されています。普段、自分一人で授業を行っている、自分の発言や行動を客観的に考えることはできません。10年めの先生方からの質問を通して、自分が授業で大切にしたいことは何なのか？自分の授業実践はその大切にしたいことと紐づいているか？など、改めて考える機会にしましょう。



是非、質問の後の初任者の様子をじっくり観察してください。沈黙があっても構いません。それは「探索モード」(左図)であると捉え、じっくり考えてもらえばよいと思います。時間的に多くの質問やアドバイスができないかもしれませんが、初任者にとっても、皆さんにとっても実りある時間となるよう願っております。

当日の司会進行も含めて、よろしく願います！